

学校評価アンケートのまとめ

令和5年 1月31日（火）
青木村立青木中学校

11月末～12月にかけて、学校評価アンケートを実施しました。実施生徒数は93名、保護者の皆さまからも多数のご回答をいただきました。誠にありがとうございました。以下にその結果と考察を掲載し、報告とさせていただきます。

保護者アンケートより(設問a～m) 生徒アンケートより(設問A～N)

グラフの色分けは以下の通りです。



1 いっそう安心して過ごせる青木中へ

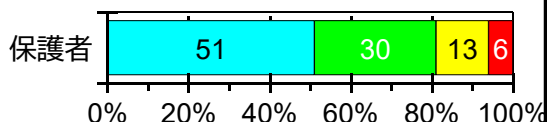
学校においてもっとも大切にしたいことは、生徒が安全、安心に過ごせる空間をつくることです。それを実現することは、どんな教育活動よりも重要であると考えています。

生徒のアンケート結果を見ますと、A～Dいずれの設問でも1学期からの向上が見られました。保護者の皆さまからも、お子様の学校へ行くようす(設問a)や規律ある授業づくり(設問b)について「(だいたい)そう思う」合計で80%以上の評価をいただきました。道徳や人権教育のみならず、日頃の授業や諸活動においても「安心して自分が出せる」「安心して失敗ができる」学校づくりに励んできた成果の一端が現れているものと思います。

こまゆみ祭での青春の集いや合唱、日頃の生徒会活動、部活動において、学年の枠を超えて支え合う場面が多く取り入れられていることも大きな要因だと思えます。

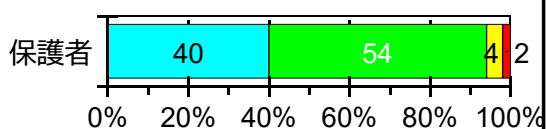
しかし、いずれの設問においても、「(あまり)そう思わない」と回答されている生徒、保護者の皆さまもいらっしゃいます。私たちは、このような方々の思いを重く受け止めております。問題

a お子様は学校へ行くのが楽しいようすだ



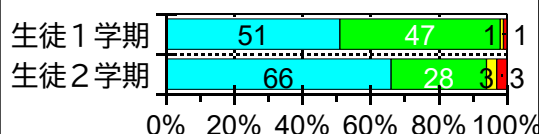
点や改善点について日常的に振り返り、

b 学校は規律ある授業づくりに努めている

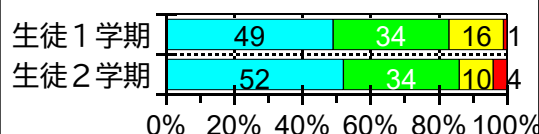


検討を重ねるとともに、生徒との個別の相談を充実させ、一人一人に寄り添いながら、不安や悩みを聞き取ったり、助言したりして、安全・安心の確保に向けていっそう努めて参ります。

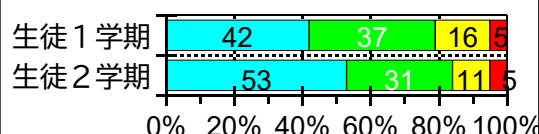
A お互いの立場を尊重することに心がけた



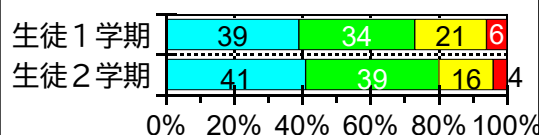
B 学級は安心して過ごせる場所だ



C 先生や仲間に安心して相談できる



D 学校に来るのが楽しいと感じている



2 学習意欲が向上しました! しかし...

2学期は、こまゆみ祭や、生徒会の引き継ぎ、新人戦など様々な行事がありました。新型コロナウイルス感染による、欠席や学年閉鎖もありました。夏は記録的な猛暑でもありました。

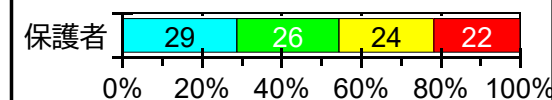
そのような中で生徒たちは、学習への意欲(設問E)、向上心(設問F)を高めました。目標をもって学習(授業)に取り組み、いきいきと活動している生徒が多いことはたいへん素晴らしいことだと思います。

しかしながら、「(だいたい) 毎日復習している」と答えた生徒(設問G)は半数にも満たない現状です。また、「授業や授業以外の時間を使って、わからないことは自分で解決しようとしている」生徒(設問H)も約7割で1学期と大きな変化はありませんでした。保護者の皆さまも、「お子様の家庭学習が習慣的になっている」と感じておられる方(設問c)は約半数です。

授業や宿題など、「先生に言われたことはまじめに取り組む」が、自分で自分の課題をとらえ、自分で主体的に考えて学習に向かう力がまだ育っていない生徒が多いと言えます。

保護者の方の記述欄に、「宿題を出してほしい」というご意見がありました。様々な経緯があり現在のようにしておりますが、宿題のあり方については今後も検討していく予定です。3学期、教

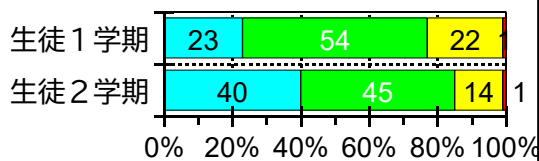
c お子様は家庭学習が習慣的になっている



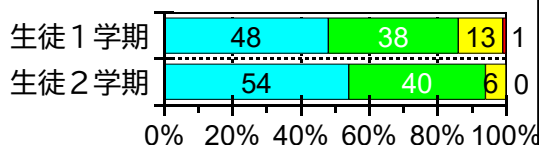
科によっては、

宿題を出し、生徒の意見を聞いてみています。主体性を育てることと並行して、家庭での自主学習力を高める工夫について検討していきます。

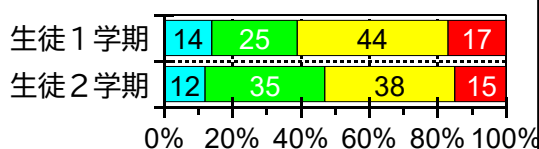
E 授業では自分から進んで追究している



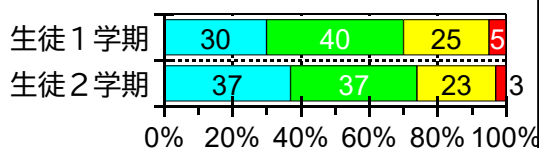
F 授業には向上心をもって取り組んでいる



G 毎日学習したことを家で復習している

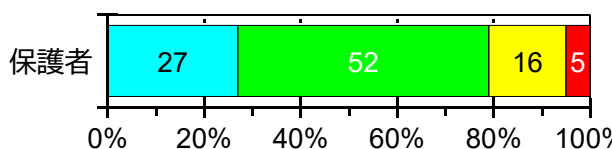


H わからないことを解決しようとしている

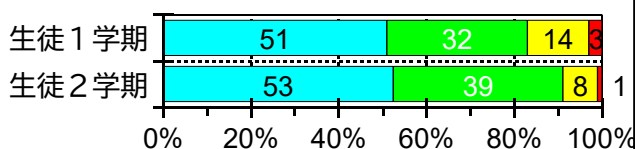


3 基本的な生活習慣が身についている青木中生

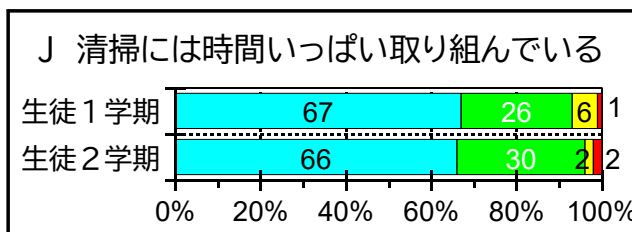
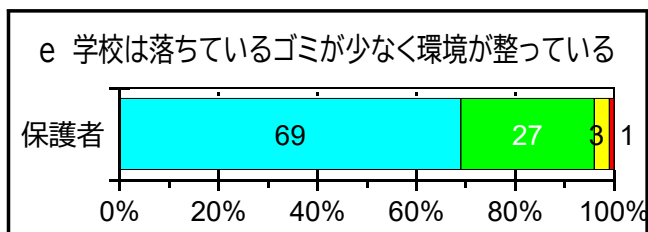
d 生徒たちは校外でも明るいあいさつができる



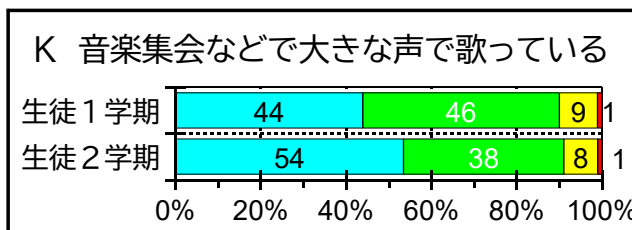
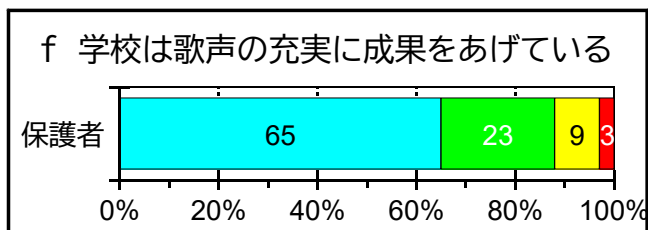
I 明るいあいさつや返事を自分からしている



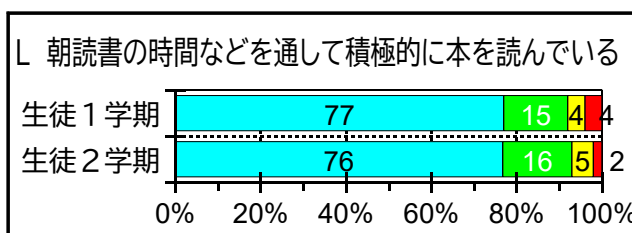
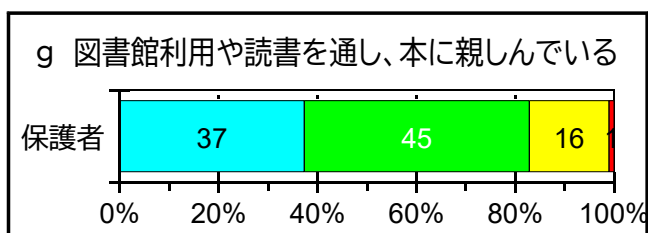
生徒たちは9割以上の生徒が「(だいたい) 自分からあいさつをしている」(設問I)と回答しています。その割合が1学期より上昇していることはたいへん嬉しいことです。確かに、私自身も校内に響く生徒たちのあいさつは向上していると実感しています。ただ、校外でのあいさつに対する保護者の皆さまの回答(設問d)は、生徒ほど高くはありません。家庭、学校が協力し合い、よりいっそう心が開かれ、家庭や学校を一步出たときにも元気で爽やかなあいさつができる生徒を育てたいと思います。



保護者の皆さまが、学校の環境について（設問 e）高い評価をしてくださっていることはたいへん嬉しいことです。毎日、清掃の時間は静寂な時間の中で、机を運ぶ音、ほうきではく音、雑巾がけする音だけが聞こえてきます。青木中生徒の清掃の姿は誇れる姿のひとつだと思います。



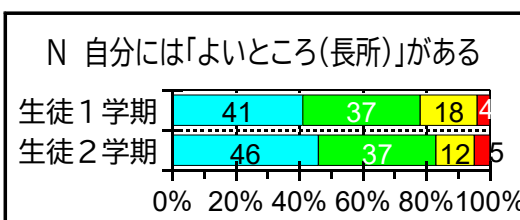
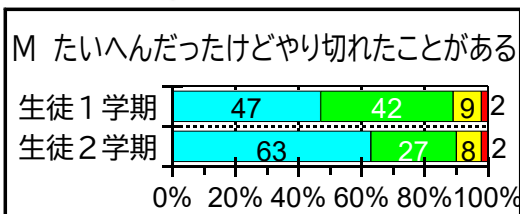
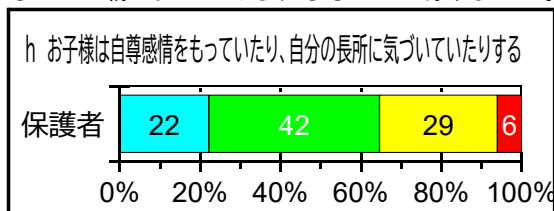
コロナ禍にあって、今年も合唱活動には制限がありました。しかし、こまゆみ祭での合唱は、たいへんレベルが高く、そのようなハンデを感じさせないものでした。保護者の皆さまも高く評価（設問 f）してくださいました。少ない時間の中でも、聴いている人に思いを届け、感動を与えた生徒たちは本当に素晴らしいと思います。



水曜日を除く毎朝 8:15 からの 10 分間読書は定着しています。各学年ともに静寂の時間が流れページをめくる音だけが聞こえてきます。どんな本と出会い、どんな主人公と出会っているのかはそれぞれですが、落ち着いた姿で 1 日をスタートさせており、今後も継続させたい姿のひとつです。

4 自分のよさに誇りがもてる生徒に

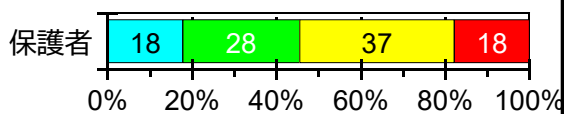
2 学期は、こまゆみ祭や生徒会の引き継ぎ、新人戦などがありました。「たいへんだったけどやり切れた」充実感を感じた生徒たち（設問 M）が多かったことがうかがえます。少しずつ自分のよさに気づく生徒が増えてきている（設問 N）こともうれしいことです。ただ、保護者の皆さまの回答（設問 h）を見ると、約 4 割の方が「まだ自分の長所に気づいていない」と感じておられます。自尊感情や誇りというものは一朝一夕につくられるものではありません。学校や地域での活動や家庭生活を通して、子どもに寄



り添いながら継続的に支援していくことが大事だと思います。今後学校、家庭、地域が連携しながら粘り強く支えて参りましょう。

5 電子メディアと上手に付き合える生徒に

i お子様の電子メディアの利用、使用は適切である



「(だいたい) 適切である」との回答(設問 i)は5割弱です。

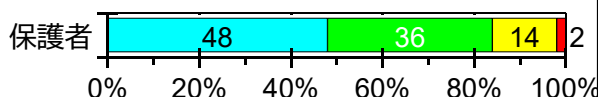
多くの保護者の方が「適切ではない」と感じておられます。もはや電子メディアなしでは考えられない世の中です。数年前までは、生徒に危険性や健康被害などの「怖さ」を伝えたり、進路への影

響をちらつかせたりして使わせない(持たせない)指導が中心でしたが限界が生じています。中学生くらいになると、逆にそのような指導ばかりだと逆効果になることもあります。今後は、生徒自らがコントロール、マネジメントできる力が求められます。生徒を子ども扱いせず、一人の人間として敬意をもって接していくことが大切なのだと思います。もちろん、今後も危険性等については伝えていながらも、進路や人生、生き方を一緒に考え合う学習を充実させ、自分で適切に判断できる生徒の育成を目指したいと思います。

6 その他

学校からの発信(設問 j)について「(だいたい) そう思う」で8割以上の方が評価してくださっています。HP をアップデートする時間がなか

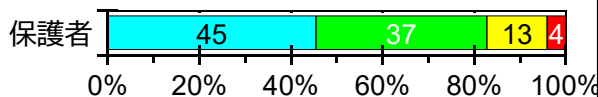
j 学校は各種通信やHPなどでタイムリーに発信している



なかとれない現状ではありますが、今後も各種通信等を通じて、学校での活動を発信して参りたいと思います。

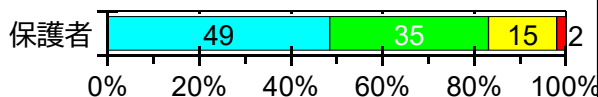
保護者や地域の方々の参観(設問 k)については、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、「正しく恐れ」制限しすぎないよう心がけて参りました。今後も、保護者や地域の方々に開かれた学校づくりを目指して参ります。

k 学校は保護者が参観しやすいように努めている

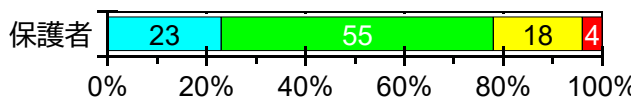


地域人材の活用(設問 l)については、これも新型コロナウイルス感染症の拡大等でアイリスセミナーが開催できないなどの影響がありました。しかし、義民太鼓や読み聞かせなど青木村の豊かな人材を活用させていただき、実りある活動が行えたことも事実です。来年度はなんとかアイリスセミナーを復活させ、青木村の宝ともいえる知識、技能が生徒たちに継承される活動を増やしたいと考えています。

l 学校は地域の人材を活用し教育効果につなげている



m PTA活動は保護者と職員の連携を深め人間性豊かな生徒の育成に成果をあげている



PTA活動(設問 m)では、PTA作業などご協力いただき大変ありがたかったです。また、参観日などにも多くの方に来校していただき、支えていただいていると感じ

ております。しかし、コロナ禍で親子スポーツ大会が中止となるなどの影響がありました。保護者の負担が大きくならぬよう活動の見直しを図るとともに、保護者、教職員の連携を深め、それが生徒たちに還元されるような活動を行っていきたいと考えています。

生徒への回答

※生徒たちからアンケートの記述に以下のような意見がありましたので、3学期始業式にて、校長先生より生徒たちに回答しました。

- ① 「自分の機嫌で生徒に嫌な態度をとらないでほしい」という意見をいただきました。これについては先生たちは反省しています。誰もが気分が乗らないときや、体調が悪いとき、忙しいとき、イライラしているときがありますが、機嫌で対応することはあってはなりません。もしそのように感じていたとしたらそれは明らかに人権侵害です。その人に悲しい思いをさせてしまいました。心から謝りたいです。皆さんも、もし今後そのようなことがあったら言ってください。先生たちはもちろん、社会に生きる人すべてが大事にしないといけないことだと思うからです。
- ② 「体育館の床のラインを新しくしてほしい」という意見もありました。村の厳しい財政の中ですが、検討させていただきます。体育の授業や部活動に支障をきたす(事故やケガのリスクが高い)ようであれば早急に対応したいと思います。
- ③ 「下駄箱が掃除されていないことが多い」という意見がありました。皆さんの清掃の姿は、誇れる姿の一つです。今後も自分に任された分担箇所に責任をもって取り組み、毎日、全校が気持ちよく過ごせる学校をつくっていきましょう。きれいな校舎だからこそ、掃除されていない箇所に気づいたのだと思います。そのような気づきをこれからも大切にしてください。ただ、掃除されていない下駄箱を見たときに、あなたならどう行動しますか？先日、流し台の排水溝が詰まっていることを発見した生徒がいました。その生徒は、先生に報告するのではなく、自分で排水溝のふたを開け、手を排水溝につっこみ詰まりを取り除こうとしてくれました。まさに感動の姿でした。先生に報告してくれることはとてもうれしいことですが、自分にできることは自分で行動する、そんな姿も大切にしてください。
- ④ 「職員室でマスクを外しているのが気になる」という意見もありました。通常、先生たちは職員室でもマスク着用しています。しかし、以前から、時や場所、周りの環境を見て自分で判断することを皆さんにもお願いしています。新型コロナウイルスについても3年目となって対策もアップデートされています。政府も、屋外では原則マスクは外すようにと1学期から言っていますが、今の日本ではまだまだそうなっていません。給食中の黙食は必ずしも必要はないということも同様です。大切なことは、自分で調べ、考え、判断することであり、それは先生方にもお願いしています。先生たちは、職員室の人数が少ないとき、換気しているとき、会話がないうときはマスクをしないこともあります。ただし、生徒の皆さんと話をするときには必ずマスクを着用します。同時に、換気や手指消毒は徹底していきたいと思います。
- ⑤ 「ジャージ登校にしてほしい。部活動が停止になっているときも服装にふれないのはなぜか。体育の授業のあとの着替えが10分しかなく不便」という意見がありました。新型コロナウイルス感染症が流行した当初は、制服よりも毎日洗濯ができるジャージでの生活の方がよいのではないかと考え、実施した時期もありました。しかし、現在では、服を洗濯した、していないで感染リスクは変わらないことがわかってきました。今後も、流行の程度によっては、密接にかかわる部活動を停止することはあると思いますが、コロナ対策としてジャージ登校、ジャージ生活にすることはないと思います。ただ、現在の日課では急いで着替えても間に合わない、という問題があるとすれば皆さんと一緒に検討したいと思います。

保護者アンケートの自由記述欄には、何名かの保護者の方より貴重なご意見をいただきました。それらの中からいくつかのものについて返答させていただきます。

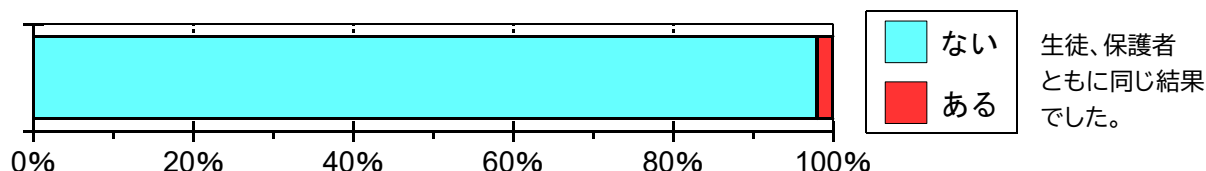
- ① 「特定の教科のみ進度が遅く、いつもテスト前日にぎりぎり範囲が終わるようです。他の教科は早めにテスト範囲を終え、テスト対策をしてくれる」というようなご意見がありました。例えば、1、2年生の国語は年間140時間、3年生は105時間というふうに授業時数は定められております。その中で教科書の内容をすべて行うのは正直ギリギリなのです。できる限り1時間はテスト対策の時間を確保するよう努力はしますが、テスト範囲を早めに終えテスト対策の時間がとれるということのほうが特別だにご理解ください。
- ② 「宿題を出してほしい」という趣旨のご意見もいただきました。本校でも検討に検討を重ねて現在のようにしております。結局、宿題を出しても自分から“わかるようにしよう”と前向きに取り組まないと力はつきません。「やらされている」「作業のような」宿題となり、力をつける、力を伸ばすためにはなっていない、など様々な理由によって宿題をなくした経緯があります。ただし、家庭学習のあり方については、今後も検討を重ねていくつもりです。3学期、教科によっては、宿題を出して生徒の声を聞くことも予定しています。
- ③ 「PTA作業は生徒も参加させたらどうでしょう」というご意見をいただきました。今年度のPTA作業にもたいへん多くの保護者の方に参加していただき誠にありがとうございました。たいへん多くの作業になるので、生徒の手があると助かりますし、何よりも生徒たちの学校ですので、PTA三役もふくめて検討して参りたいと思います。草刈り機などを使うので安全面が確保できること等を考慮しながら慎重に議論を進めて参ります。
- ④ 「アンケートに答えられない内容もあるので“わからない”という選択肢もつくってほしい」という意見をいただきました。保護者の皆さまの回答のしやすさ、集計のしやすさを考えながら改良して参ります。
- ⑤ 「生徒や保護者が情報取得等、活用しやすいホームページになればと思う」という意見もございました。正直、ホームページのメンテナンスにかけられる時間はあまりないのですが、わかりやすい、見やすい、役に立つを目指して徐々に改良していきたいと思います。
- ⑥ 「ゴテラに毎日来る人は〇〇人中△番とニンジンぶら下げると少しはやる気ですかね」というご意見もいただきました。成績のことでしょうか。これは難しいですね。中学生くらいの年頃になりますと、大人の下心を察知した時点で逆効果になることが多くなります。いくら危険性を訴えてもスマホの使用をやめない、というのと似ています。つまるところ、生徒自身が成長する中で、自分をマネジメントする力をつけていかないと、押しつけや脅しでは動かない、または、それで動いたとしても心が成長したわけではない、ということだと思います。生徒が、勉強する必要性を実感し、将来への展望をもつことができれば、自ずとやりがいをもって学習するものと考え、進路学習などの諸活動にあたっておりますが、一朝一夕では変わらないものですね。根気強く、粘り強く指導、支援に当たっていききたいと思います。

その他、「親も子も先生に相談しようと思える安心感がある」「頑張っている子どもたちとそれを支える先生方にエールを送りたい」等、温かいお言葉を多数いただきました。本当にありがとうございます。今後も、少しでも期待に応えられるよう生徒ともども向上心をもって励んで参りたいと思います。また、「先生同士、距離感が近い人がいる」「言葉遣いに気をつけてほしい」「男女差別をしないほしい」等々の厳しいご意見もいただきました。具体的な場面がわからないので回答はできませんが、このような厳しいお言葉もたいへんありがたいものです。私たちの戒めとして受け止めるとともに、いっそう緊張感をもって今後も教育活動に当たりたいと思います。

体罰についてのアンケートのまとめ

1月12日に配布いたしました体罰についてのアンケートを、1月26日(木)、27日(金)に提出していただきました。生徒数108、家庭数98に対して、ほぼ100%の提出をいただきました。本当にありがとうございました。以下にその結果と対応策について掲載いたします。

1 アンケート結果 設問「今年度、学校において体罰を受けたことがある」



2 「ある」と答えた生徒や保護者からのご意見の概要

- ① 殴られた、けられたというような体罰ではありませんが、学校職員に指導されたことで、怖さを感じたり、嫌な気持ちになったりした、という内容でした。
- ② 学校をよくするためのアンケートは、定期的に行い、生徒が楽しく通える中学校になってほしいというご意見もいただきました。

3 考察と今後の対応策

①について

教頭が、生徒本人と面談を行い、詳細に聞き取った上で、関係職員に事実関係を確認したところ、確かにそのような指導や発言があったことが認められ、保護者の方と解決策や今後の接し方について一緒に考えさせていただきました。

学校は生徒が主役であるべき場です。生徒と同じ目線で、「共に歩む」、生徒の主体性に任せ「困った時、つまづいた時には支える」という立場での指導・支援を心掛けていくところです。もちろん、生徒の安全を確保するためなど、時には厳しい指導をしなくてはならないこともあります。しかし、指導は愛語をとまなうものでなくてはならず、それによって生徒が傷ついたり、恐怖を感じたりするようなことはあってはなりません。

関係職員だけでなく、全職員で貴重なご意見を共有し、全職員が自分事としてとらえ改善を図ることを確認しました。私たちはこのことを肝に銘じ、今後、よりいっそう生徒たちの笑顔が輝き、活力がみなぎる学校を目指して参ることを約束いたします。

②について

今年度は、1学期末(7月)に生徒への学校評価アンケート、2学期末(11月)には、生徒と保護者への学校評価アンケート、3学期(1月)は、生徒と保護者への体罰に関するアンケートを実施しました。

これらのアンケートの目的はすべて、「よりよい学校にするために、職員が自分を振り返り、改善を図る」ためです。来年度も、今年度と同様に行う予定ですので、忌憚のないご意見をお寄せください。また、これらのアンケートでなくても、日ごろお子様のようすで気になることや、学校への意見などございましたら、お気軽に学校までお電話ください。

相談窓口
青木中学校49-2028
教頭 大久保礼子